

4/20 (土)

4年ぶりの
心のケア

大虐殺を生き
た老人たち

- 4月20日 (土)
13:30開場-14:00開始
- 於: PLP会館・4F
小会議室B (裏面地図)
(JR天満・地下鉄扇町)
- 資料代 800円



映像: ①「松岡さん、4年ぶりに南京へ向かう」

②「また会えましたね—南京の証言者たち」

報告: 松岡環さん「南京の証言者たちの今」

主催: 銘心会南京 / 共催: 南京の記憶をつなぐ2024

「大虐殺を生き残った老人たちと」4年ぶりの心のケア上映／講演

◆中国で報道された映像の紹介

①『松岡さん、4年ぶりに南京に向かう』

②『また会えましたねー南京の証言者たち』



【左写真】
楊明貞さんは、7歳の時に母親とともに日本兵に強姦され、目の前で父母を殺害されました。
「(尿道が傷つけられ)今もおむつが外せない」と私にいつも泣いて話されました。



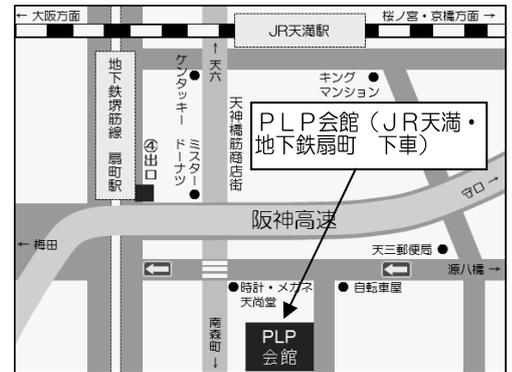
【左写真】陳徳寿さん、日本軍に家族を殺され私も刺されました。私は世界の平和を願っています。平和共存、相互関心です。
このような関心を私に持ってくれる貴女に、本当に感謝します。

◆報告：松岡環さん（銘心会南京／日中平和研究会 代表）

『南京証言者たちの今』

(まつおか たまき)さんプロフィール：元小学校教師。南京大虐殺の調査を続け、日中戦争での日本の侵略の歴史認識と被害者の「心のケア活動」を行っている。著書『南京戦・閉ざされた記憶を尋ねて 元兵士・〇二人の証言』（社会評論社）は、日本ジャーナリスト会議賞受賞。

一貫して南京大虐殺の被害者や南京攻略戦に参戦した元兵士（計550人以上）を調査、それをもとにドキュメンタリー映画を制作し、日本および世界各地で上映会・講演を行なっている。



会場地図

主催：銘心会南京（TEL 090-8125-1757）

共催：南京の記憶をつなぐ2024

◆銘心会南京の活動について

銘心会南京は、「南京の歴史事実」を明らかにしたく、1988年の南京被害者への聞き取りから活動を始めました。現在までの主な活動は、①南京攻略戦に参戦し、大虐殺を実行した元兵士の調査と被害者の証言調査。②南京スタディーツアーを毎年企画し日本の侵略戦争を現地で学ぶ旅を実行。③南京大虐殺犠牲者への「心のケア」を行い、証言者のご家族へのお見舞いと傾聴活動を実践。④調査した550名以上の加害側と被害側の証言映像データを基にしたドキュメンタリー映画と映像証言の制作などを重点活動として取り組んできました。

◆「心のケア」の活動について

そうした中で「心のケア」は2001年より始めました。被害者の調査を続けてきますと、女性だけでなく男性も被害を受けて心と体に深い傷を負っていることを知りました。

調査を基にして日本へ招請した証言者は40余人程になります。少しでも楽しいひと時をと願って、私たちは、老人たちとの楽しい食事交流会を開いたり、ご自宅へ行き傾聴する慰問活動「心のケア」を毎年欠かさず続けてきました。

コロナが猛威を振るった期間、私たちは中国での活動の道を閉ざされ「心のケア」や調査ができませんでした。わずかにSNSでの一部の情報交換のみでした。日本国内で講演集会や上映会を中心に市民への活動を行っていました。2023年12月4年ぶりに日本市民への入国許可が下り、ビザを申請して南京へ入り、南京大虐殺犠牲者の国家追悼式に参加と私の一番の目的である「心のケア」を4年ぶりに行うことができました。老人たちは心から私と通訳さんを待っていてくれました。幸存者たちの今とその願いをここPLP会館で皆さんにお届けします。